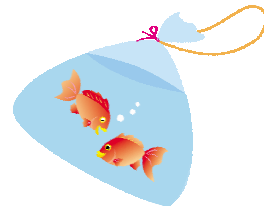


山行報告



はじめての山歩き教室 須磨アルプス



日 時：6月2日(土)

参加者：La 上田 SLa 澤田(律) 足立 狩集 小山 武田

教室生 井上 英保 香川 北口 木村 塩津 島田(克) 島田(久) 田口

Lb 砂川(延) SLb 山本 開 待場 森永 渡邊(俊) 青山

教室生 苦瓜 西川 樋口 平井 村上(卓) 村上(敬) 吉田

行動記録：塩屋 9:05～旗振山 10:00～鉄拐山 10:15～おらが茶屋 10:25～梅尾山 11:12

横尾山 11:32～須磨アルプス 11:50～東山 12:08 (12:50 発 昼食) ～妙法寺 13:25～高取山 14:50～安井茶屋 15:00 解散

★ 須磨アルプス山行 (教室生サポート) に参加して

小山

3月の六甲山全山縦走西コーストレに参加した際、初めて須磨アルプスを歩きました。それまでは写真でしか見た事がなく、「馬の背」に行ってみた～い！！一心でトレに参加しましたが、六甲山全山縦走は半分でも甘いものではなく、私にとってはずいぶん辛い山行となりました。その際に痛めた右膝がまだ治らず、いまだに階段で疼きます。それまでは快適な登山をしてきたので、このルートには悪い思い出しかありませんでしたが、半縦走のルートの中で唯一楽しかったのがこの須磨アルプスでした。今回の山行は大好きな須磨アルプスにちょこっと寄れるコースかなと思いきや、歩行時間4時間の予定。ほぼ全山縦走の四分の一というコースでした。

曇り空の下、山陽塩屋駅北を出発。今日は教室生の方が16名、サポート13名です。旗振山から鉄拐山へ、順調に進みます。住宅街の高倉台を抜け、いよいよ梅尾山手前の400段?の階段となりました。3月に初めてこの階段を登った時、それまでの行程でもう既にへろへろ状態の中、階段の手すりにつかまりながら、やっと登った記憶がありました。教室生の方の中にも手すりにつかまりながら、やっ



とという方がいらっしゃいました。途中で休み休み行かれるので、なかなか上に上がれませんでした。それぐらいのペースで丁度でした。横尾山を抜けていよいよ須磨アルプス、素晴らしい景観が広がります。やはりここは半縦走ルートのオアシスです。教室生の方だけでなく、サポートの方の中にも初めてという方がおられました。須磨アルプスをあとにして東山へ。東山ではゆったり昼休憩を取っていただきました。休憩のあとはいざ高取山、本日最後の難関です。食事の休憩が長かったせいか、途中で熱中症と思われる症状が出て、歩けなくなった教室生の方がおられました。そういえば、去年の教室の山行で、熱中症と思われる症状が出たのは7月のロックガーデンに行った時が最初でした。それまでは汗をかいたら塩分を取るという基本を知らなかったように思います。知らないまま山行に参加し、このような症状が出ると、かなりお辛かったかもしれません。最後の高取山を終え、安井茶屋先のトイレがゴールとなりました。蒸し熱い中、5時間の歩行、教室生の方にとっては大変だったかもしれません。でも7月のロックガーデンに向けて、来年の六甲山全山縦走に向けて、いいトレーニングになったと思います。

那岐山

日 時：6月10日（日）

参加者：La 山本 SLa 蔵田 池尻 伊賀 狩集 小山 坂田(俊) 清水 瀬尾 多木 野田
Lb 和田 SLb 澤田(律) 瀧原 田羅間(易) 野村 長谷川 藤田(宏) 藤田(文)
三木(悦) 渡邊(健) 増田

行動記録：JR 宝殿駅 7:32→S/A8:45→那岐山 P9:22～登山口 9:50～大神岩 10:51～那岐山頂上 11:47—
昼食 12:18～AB コース分岐 12:32～登山口 13:57～駐車場 14:25→かんぼの宿 15:28—入浴
16:30→JR 宝殿駅 17:45

★ ドウダンツツジを見て歩く (那岐山山行に参加して)

野村

6月10日（日曜）、梅雨入り3日目の朝7:30 JR宝殿駅を出発。最初にリーダーより、「ドウダンツツジは残念ながら今年は裏年で休眠状態の為あまり期待できない」との説明がありました。梅雨に入ったばかりの曇天ですが、リーダーと皆様のお陰で楽しい山行が出来ました。岡山県津山インターを下りて、那岐山登山口駐車場に到着、ストレッチをしてから9:40にスタート。Cコース登山口から少し入ると、ピンクの花が咲いていて「ドウダンツツジ」かと思ったが赤色の「ニシキウツギ」でした。1時間ほどして第一目標「大神岩」の手前で待望の「サラサドウダンツツジ」が咲いている一枝を発見、枝先に鐘型の花をつり下げ淡黄色で、紅色の筋が入ったピンク色の愛らしい花でした。「大神岩」1000mからは津山を見下ろすことが出来ましたが、ここから那岐山の山頂はいにく曇天の霧で展望は期待できない状況でした。その後は「サラサドウダン」を見ることは出来ませんでした。沢山の「ニシキウツギ」や「ノリウツギ」の美しさを楽しみながら、11:40に那岐山「三角点」1、240mに到着。



好天の時は日本海と瀬戸内海が一望できる360度のパノラマを想像しながら「那岐山」山頂を目指しました。11:55「山頂」到着、360度真っ白のパノラマの中で昼食、霧の中の山頂だったので、予想よりも気温が低く、少々肌寒さを感じながら、温かいコーヒーを飲んだ人は最高でした？（半分以上の人は暑さを予想して冷たい飲み物が多かったようです）

全員が不思議に思ったのは、山頂には標高1、255mと1、240mの2か所の標高表示が有るのです。昭和57年1、240mと平成13年1、255mの表示です。帰ってから、インターネットで調べると、最高地点（新那岐山表示）1、255mと三角点表示（旧那岐山表示）1、240mだそうです。

又、那岐山の名称の由来は：伊邪那岐命と伊邪那美命という国造りの神がこの峰に降臨した伝説に由来するとも、また近隣の「後山」との高さ比べに敗れて泣いたため「ナキノセン」と呼ばれたとも言われているそうです。

12:20「Bコース分岐点」を目指し出発。下山コースで足元に気を取られながら歩いてA班のメンバーが「Bコース分岐点」から下山しようとした時、



B班の田羅間さんが、「サラサドウダン」が咲いているのを発見、「咲いている」・・・の一言でカメラと携帯電話を持って全員集合！今日2本目の「サラサドウダンツツジ」です。今度は10個ほどの花を多くの枝に付けた3mほどの木でした。全員が諦めていた時の出来事で全員満足。※田羅間さんは・・・本日のヒロインです。

その後「サラサドウダン」には出会えませんでしたでしたが全員無事14:30バス駐車場に到着。帰る途中に女子サッカーのナデシコジャパンでも有名な湯郷温泉、「湯郷かんぽの宿」に立ち寄って温泉に入りさっぱりとして帰路に着きました。

帰宅後、メンバーの渡邊さんからメールを頂き「YouTubeに霧に包まれた我々の山頂での動画」と、今回は霧で見る事が出来なかった、「快晴のパノラマ」も見ることができました。山本リーダーからは、今回十分に見ることが出来なかった「2005年のサラサドウダン」の写真をメールで頂き、きっとこの様な満開の「サラサドウダン」と素晴らしい展望を見て歩く企画をして下さった事を思い、感謝の気持ちで一杯です。次回の那岐山の山行計画が有れば是非参加したいと思います。

芦生の森

日 時：6月16日(土)

参加者：La尾越 SLa和田 Lb松下 SLb待場

阿江 青山 井上 池尻 大石 大谷 岡本 狩集 小山 坂田 佐藤(玲)

多木 瀧原 時井 開 平山 藤原 三木(悦) 森永 山本

行動記録：

往路；山電高砂駅6:05—JR加古川駅6:20—滝野庁舎下7:00—美山町芦生山の家9:40着

①P芦生山の家10:00～長治谷10:42(53発)～うしろ谷11:30～岩谷12:00(12:25発)昼食～榊上谷12:37～上谷由良川源流13:00～杉尾峠13:12～杉尾峠下13:30～芦生山の家14:15

②P芦生山の家10:00～京大研究林事務所10:10～灰野10:42～赤崎谷11:07～小蓬谷11:20～大蓬谷～フタゴ谷橋手前11:50～小蓬谷12:15～灰野12:50～京大研究林事務所14:05(14:35発)(昼食)～内杉谷入口14:40～芦生山の家14:55

復路；芦生山の家14:55—茅葺の里15:25(16:05発)—滝野庁舎下18:20—JR加古川駅19:00—山電高砂駅19:25

★ 雨の山行も又楽し・・・のはずが・・・

佐藤

以前より一度は行ってみたかった「芦生の森」屋久島のミニチュア版との事で、とても楽しみにしていたのですが、天気予報は雨！時期的に仕方ないし雨の芦生もまた味わい深い山行が出来そうで期待を胸に、当日集合場所の加古川駅へ、途中滝野グループと合流し約3時間で目的地の「芦生山の家」に到着。

私たちトロッコ道コースは総勢9名、身支度を整え10時過ぎ雨の中出発。ワクワクしながら森の中へ、トロッコの軌道に沿ってしばらく歩いていると「ここはヒルが居るらしい」その一言で全神経が足元に集中！まさか

と思いつつ歩いているとヒルがスパッツにくっついてくるので払い落とす事数回、、、他のメンバ



一も悪戦苦闘の様子、休憩も足踏みをしながらと言う状態だったので森から出た時は「ほっ」としました。

私は田舎暮らしのせいか虫にはあまり抵抗は無いのですが、さすがにこの度のヒルにはヒルみ(?)しました。何とも思い出深い「芦生の森」になりました。リーダーの松下さんには大変お世話になり、また当日も随分気を遣われたと思います。そしてご一緒していただいた皆さん本当に有難うございました。

梅雨空が 恨めしきかな 廃線を
ヒルの気配に 怯えつつ
気もそぞろなる トロッコ道

★ 芦生の森・上谷～杉尾峠コースを歩く

三木

京都・美山町にある関西を代表する森、あこがれの「芦生の森」へ行ってきました。



芦生の森は、京都大学の研究林として、その原生の姿が守られている素晴らしい森でした。

入林するには規制があり、今回、希望者が多く参加できるかどうか少し不安でしたが、リーダーの配慮で、コース選択の班分けが設けられ、「トロッコ道」コースと「上谷～杉尾峠」コースに分かれ全員が参加出来ました。ありがとうございました。

森といえば三年前、乗鞍山麓「五色ヶ原」の森をネイチャーハイクした時、専属ガイドの方に関西も素晴らしい原生林の森がありま

すよ!と教えて頂きました。それ以来、芦生の森は、一度訪れてみたい森でした。

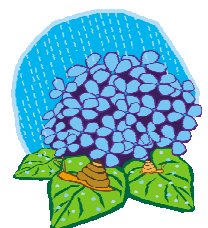
芦生研究林を代表するコースで、「上谷～杉尾峠」コースを選択した私達15名は、専属ガイドの案内で、長治谷(640m)～上谷に沿って野田畑湿原やトチの巨木・大カツラを見ながら日本海に流れる由良川の源流域・杉尾峠(765m)までの探訪となりました。ブナ・カツラ・ミズナラ・トチノキの豊かな天然林は多種の植物を育て、いろんな生物が生育する森である。等々・・・植生区分や森の特徴の解説に耳をかたむけながら進んで行きました。

長治谷から歩き始めた時、足元の‘イモリ’の数にびっくりです。池周りの木々の枝には、この季節の見どころ‘モリアオガエル’の卵塊もたくさん見ることが出来ました。木の高い所に卵塊あるのでちょっと不思議な感じです。なかなか姿は見せなかったが、いろんな野鳥の声も聞こえてきました。タニウツギ・タツナミソウ・ヤマアジサイ・ギンリョウソウ、花や珍しい植物も豊富です。なんと言っても雨中、大木や倒木に絡まって咲く白いツルアジサイが美しく自然が造りだしたオブジェのようです。そして豊かな森は自然の博物館の様でもありました。

山行の前日「明日は雨のようですが、予定通り実施します」と、リーダーから連絡がありました。いつもの山行とは違い雨天決行です。

予報通り、雨の中の森歩きとなりましたが、装備はバッチリ!雨の森を楽しむ事ができました。むしろ水々しい森に出会えて良かったです。森の匂いや自然を体感し、少し戸惑ったが雨の中での食事体験しました。

帰りのバスの中、リーダーが一人々に感想を聞きました。「一度は来てみたかった森、来られて良かった・森の樹木や花が良かった・ガイドの案内も良かった・雨の経験が出来て良かった・茅葺きの里散策も良かった・計画ありがとうございました。」



の答えでした。雨の森歩きでしたが、満足度100%の山行でした。秋の森も見てみたい！！の声も多かったですね。「芦生の森」は誰もの心に残る魅力あふれる森でした。

三国岳

日 時：7月7日（土）

参加者；L 和田 SL 嶋澤 青山 時井 坂田(俊) 関山 藤田 平山 坂田(敬) 瀧原

行動記録：道の駅「加美」9:25～登山口9:30（ストレッチ後10:15発）～6合目11:00～

三国峠11:30(11:35発)～三国岳12:00 昼食(12:25発)～登山口13:40～ストレッチ後道の駅加美14:00—春蘭荘14:30(15:30発)解散

★ 雨の三国岳山行

坂田

前日は梅雨前線や低気圧の影響で強い雨となり、夜半には、大雨、稲光、雷で大荒れになった。山行は中止かとも思っていたら、午前6時には雨があがった。決行とのメールは見ていたが、ひょっとして中止になるかと思いつつ集合場所に行った。

今回は、自家用車利用で現地集合であり、高砂駅で車に乗せてもらった。途中では晴れてきたので喜んでいたら、現地到着前に雨が降ってきた。憩いのホットオアシス『道の駅』で休憩していると小雨になり登山口へ移動した。雨合羽を着てストレッチを行い、沢に沿って杉林の道を行くと途中で誰かが“やまびるに咬まれた”と言ったのでお互いに確認をしたら2人が咬まれていた。

一息いれて急斜面を登り、三国峠（744m）に着き、記念撮影と休憩をとり、三国岳山頂へ向かった。下から吹き上げてくる風が汗で濡れた体を心地よくした。三国岳山頂（855m）到着。天気であれば竜ヶ岳が見えるそうだが残念！悪天候だったのでさすがに誰も登っていなかった。霧雨の中で食事を取り、下りは登ってきた道を滑ることなく、そして意外と歩きやすく下山する事ができた。

登山口で雨合羽を脱いだ時『やまびる』に足を4人の人が咬まれていた。薬を塗り、ストレッチを終えて『道の駅』で休憩をし、老人福祉センター『春蘭荘』の風呂で身体をほぐし、気分爽快で帰路に就いた。今回は、雨模様で、山頂からの見事な眺めは無かったが、次を楽しみにしよう！

リーダーさんをはじめ皆さんと1日を過ごさせて頂きありがとうございました。



はじめての山歩き教室 六甲山系 ロックガーデンから一軒茶屋

日 時：7月8日（日）

参加者：

教室 AL：砂川(延) SL 尾越 教室生 井上 北口 木村 田口(善) 苦瓜 樋口

BL：須増 SL 荘所 教室生 大田 田中 西口 平井 山本(喬)

CL：山本 SL 澤田(律) 教室生 香川 赤松 田口(末) 中村 村上 山本(俊)

会員 La : 松下 SL 澤田(卓) 小山 瀬尾 大谷 塩津 森川 三浦 大石
Lb : 西村 SL 中嶋 金島 狩集 田羅間(勤) 野村 河合
Lc : 和田 佐々木 田羅間(易) 伊賀 野田 垣内 松尾

行動記録 : 阪急芦屋川駅 8 : 49 ~ 公園 8 : 55 (9 : 25 発) ~ 高座の滝 9 : 55 ~ 風吹き岩 10 : 51
(11 : 10 発) ~ 雨が峠 12 : 03 (12 : 30 発) ~ 東お多福山 12 : 48 ~ 土樋割り峠 13 : 00
~ 一軒茶屋 13 : 58 (14 : 20 発) ~ 石の宝殿 14 : 30 (14 : 35 発) ~ 東お多福山登山口バス停
15 : 34 ~ 阪急芦屋川 15 : 50

★六甲ロックガーデンから一軒茶屋山行に参加して

中嶋

大雨の後の晴天日、午前9時阪急芦屋川駅に集合であるが、早めに駅に着く。多くの登山者がそれぞれのグループの群れとなり、広場一杯である。今回の参加予定者は、会員29名、教室17名である(当日の不参加者が数名いた)。私は、毎年この山行に参加していて今年で6回目となる。夏山に向けてのトレーニングと教室生の顔ぶれが見たいためである。

広場が混雑してきたので、参加チェック済みの人から上の公園に移動、そこでストレッチ体操後、会長より本日の行動指針を聞く。今回は6班に分かれての行動である。9 : 25 会員B班の私達7名は西村さんを先頭に一番で出発する。高座の滝までに他の2班に追いつかれた。ここも登山者で一杯であり、続々、続く人の列の切れ目に割り込み登山道を登る。昨年まで集合していた登山道下の河原は、大雨の影響かダムのような水たまりになっているのが見下ろせた。花崗岩の岩場を登る。若者のグループ、

中高年グループ等ダンゴ状態である。私は最後尾にいたが、列内に他の人が混じらないよう注意して登る。10 : 30 休憩を取る。いつもの鉄塔下は先客多数で少し先で休む。ここで教室生の班に追い越される。10 : 55 風吹き岩に到着。ここも人で一杯、今風の山ガール、山ボーイの服装で溢れている。職場の仲間、親子連れ、中高年グループが多く、外国人も見かける。この先砂地となり、ダンゴ状態もなく歩き易くなる。天気も時々晴れ間が見られる。ウグイスの鳴き声も聞こえ、大きなキノコも見られた。時折、木々の合間から芦屋、西宮、大阪湾が見え、気持ちが良い。12 : 00、雨が峠に到着、



多くの登山者が彼方此方グループになって食事中、オカリナの演奏も聞こえる。他の班は食事も済ませている。私達の班が先行しているものと思っていたが、何のことはない最後尾であった。食事中に他の2班が出発した後、12 : 30 東お多福山に向け出発。笹の原で日差しを遮るもの無くなったが、本日は日差しも弱く、涼しい限りである。13 : 00 土樋割峠から、黒岩谷西尾根のやせ尾根を登る。一步踏み外せば谷底まで転げ落ちそうな所もある。疲れた人の為途中で一度休む。50分で登り切り、一軒茶屋に到着。トイレがどこも満員である。教室生の班が到着したのを確認後、14 : 20 六甲ドライブウェイを歩き、石の宝殿→蛇谷北山→土樋割峠のコースを下る。途中で3組のハイカーに出会った中に、中国人の2人組もいた。土樋割峠に到着したが、15 : 36 分発のバスに乗るため小走り状態でバス停に急ぐ。何とか間に合ったが、空いていたバスも先行の2班、他の登山者等で満員であった。私は阪急芦屋川で下車、阪急、阪神、山電と乗りついで、17 : 15 帰宅した。楽しい山行を、有難うございました。

山行報告



はじめての山歩き教室 京見山 (216.1m)

日 時：4月29日(日)

参加者：La 上田 SLa 澤田(律) 大瀬 大谷 金島 坂田 山本
Lb 砂川(延) SLb 須増 武田 長谷川(易) 松下 待場 三木
教室生14名

行動記録：JR はりま勝原駅 9:23～春日神社 9:42～京見山 10:49(10:57 発)～泣き坂峠 11:12
(11:15 発)～白毛山 11:48(12:30 発)～トンガリ山 12:46(12:50 発)～才登山口 13:10～
JR 英賀保駅 13:40

★ 春の里山歩き

金島

“緑のそよ風 いい日だね～ ちょうちょも ひ～らひら まめの花～・・・”♪
昔こんな歌を歌ってたなー そっと 口ずさみたくなるような春の日、姫路の里山、京見山に登りました。JR 姫路駅から西方面二駅のはりま勝原駅で今年度の教室生14名の皆様と私たちサポート隊14名が集合です。朝10時前に登り口、春日神社では地元の方たちが山道などの掃除の真っ最中“こんにちは。おじゃまします”神社にご挨拶申し上げ登り始めました。春山は笑うというがまさしく今日はそのとおりで足元から草の匂いと顔を撫でる風は本当に気持ち良い。京見山と名乗ったこの山の由来は、はるか昔、応仁の乱があった時のこと、遠く京の都が火の海に燃え上がるのがこの山のとっぺんから見えたことから名が付いたとか・・・。“ほー・・・ そうなんだ・・・” また、この山にはずいぶん古墳の跡が残っていて大昔この地に豪族が栄え豊かな土地であったことも伺えます。感心しきり。今日の山行は教室のサポート隊と言うことで参加していた私でしたが自分の楽しみを存分に味わっています。山では「出会い」の楽しみがありますが本当にそのとお

り、山への興味で勉強されている方たちの中に入るとポップコーンがはじけるみたいに話が弾み和気藹々が本当に楽しい。眼下の景色を見たりしながらゆっくりと登り、京見山頂上216メートルではポーズもにぎやかに記念撮影。頂上を楽しんだ後は泣き峠を越えた広場で昼食です。南に播磨灘、遠く春霞の中に山々や町並み。春の午後、ちょっと汗ばむほどの陽気で里山の魅力たっぷりです。里山はいいなー。下山は全員揃って一気に1時間足らずでふもとの才天満宮神社に。7キロの山歩きといえども、はりま勝原駅から英賀保駅までわずか一駅ではありますが気分はすっきり。来週一週間これで私の心が持ちます。GWの1日目4月29日の今日は「昭和の日」の記念すべき春の里山歩きになりました。



笛石山 (894.6m)・後山 (1344.5m)

日 時：4月30日(月・祝)

参加者：La 渡邊(俊) SLa 待場 大石 狩集 塩津 瀬尾 多木 田羅間(勤) 中嶋 藤田
舛賀

Lb 澤田(律) SLb 和田 小山 蔵田 嶋澤 田羅間(易) 野村 増田 森川
渡邊(健)

行動記録：宝殿駅 7:15 発(姫路バイパス⇒播但連絡道路⇒中国自動車道⇒山崎 IC 途中、中国自動車道の安富パーキングでトイレ休憩； 県道 53 号線、72 号線で登山口駐車場へ) 松の木公園駐車場： 8:41 着ストレッチ後登山開始 9:00～猫石 10:13(10:18 発)～笛石山山頂(894.6m) 10:27(10:38 発) 一般道合流点分岐： 12:15(昼食 12:40 発)～後山山頂(1344.5m) 13:24(13:30 発)～おごしき山(平成之大馬鹿門) 14:03～後山登山道分岐： 14:43 松の木公園駐車場着： 15:52 ストレッチ：16:06一入浴： 16:20(17:10 発)(県道 72 号線、国道 429 号線、29 号線；山崎 IC⇒中国自動車道⇒播但連絡道路⇒姫路バイパス)(途中、中国自動車道の安富パーキングでトイレ休憩) 宝殿駅： 18:47 着

★ 笛石山・後山 山行

ゴールデンウィークの真っ只中、総勢 21 名で兵庫県と岡山県との県境にまたがる笛石山・後山連峰山行の旅に、4月30日午前 7 時 15 分宝殿駅をバスで出発。

いつものことながら、何の下調べもなく後山ってどこにあるのだろう、兵庫県の北部かなあ、ぐらいな気持ちで参加。バスに乗ることおよそ 1 時間 30 分、8 時 45 分に宍粟市千種町の松の木公園に到着。この公園には行者霊水があり、行者修験西の大峰山と言われている後山(通称：板馬見山) 溪谷約 500m の奥地で地下 26m から湧出するまろやかな自然水であらたかな霊水と言われているとか。

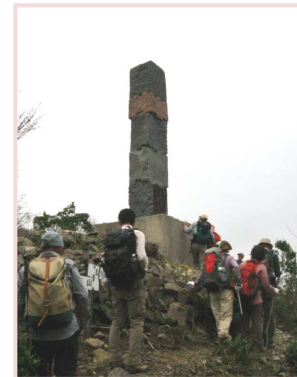
ストレッチ体操の後、9 時に登山開始、板馬見溪谷沿いから沢沿いの道を登る。笛石山(標高 894.6m) の手前に猫石と呼ばれる紛らわしい名前の岩がある。里側から見ると猫の顔に見えるらしいが、そうであるなら、いっそ猫石山にした方がよかったのではと思ったり-----。

その笛石山は、見る角度によって円錐形の

増田

きれいなシルエットとなる、山と言うよりは後山から派生する尾根の末端という感じだ。

昼食後、後山の頂上へ、兵庫県宍粟市と岡山県美作市にまたがる標高 1345m の山。兵庫県の側からは板馬見



山とも呼ばれ、氷ノ山後山那岐山国定公園の主要な一部を形成し、兵庫 50 山、近畿百名山、中国百名山の一つ、三角点のある頂上部分は岡山県美作市側に位置しているという岡山県の最高峰、兵庫県では氷ノ山、三室山に続く第 3 位の標高を誇っている。

帰路は、おごしき山から板馬見溪谷沿いのルートで松の木公園に、その途中おごしき山付近に平成之大馬鹿門がある。四つの大きな石が縦に組み立てられ門柱を形づくっている感じ。台風するときなど倒れないだろうか、鉄筋は入っているのだろうか、いやこんなの

はいわゆる手作り方式なので鉄筋など入っているはずがないなど、わいわいガヤガヤ、誰が名付けたのかこの素晴らしい(?)名前、予定通り16時に松の木公園にゴール。

この日の山行は特段急峻なところがあるわけではなかったが後山までは、登りが多く結構しんどかった感じである。帰ってきてか

ら2~3日足が痛かったのは下りに少し足をひねったこともあったが普段あまり山登りをしていないつけかも。足腰のことを考えればやはり月2回程度の山登りは必要と暗に教えられた気持ちです。ありがとうございました。

千町小屋をベースに宍粟50山に登る

① 大段山 (966m)

日 時：5月1日(火)

参加者：L上田 SL渡邊(俊) 佐々木 澤田(律) 砂川(美)

行動記録：

- 1日 マックスバリュー別所店 8:00—上千町集会所 10:30~登山口~昼食 11:30(12:15 発)
~大段山山頂 12:20~上千町集会所 14:30—千町小屋 15:00(泊)
- 2日 6時30分起床 雨も強く降り山行中止 昼食後帰宅

★大段山 (千町小屋泊の2日間)

佐々木

しばらくブランクのあった後の山行、それも小屋泊まり。ザックに詰める荷がどんどん増えてくる。たかまるのは、期待とザックの目方。

5月1日7:30、家の近くでWさんの車に拾ってもらい、マックスバリュー別所店に。

メンバー5名集合。そして食料の買い出しです。が、私の押しているカートには酒、酒の肴の類ばかりで、これは間違いなく飲み会の買い出し。

10:30上千町集会所に到着。ストレッチの後、にぎやかな蛙の声に送られて登山口に。ガイドブックに“郵便屋さん道”とある尾根筋の道をたどる。登山道の右と左で植生が全く異なる。右の斜面は“こなら”等の雑木林で芽吹きのだい緑。左は桧と赤松で常緑樹の濃い緑。

そして道は、松の落ち葉の絨毯です。道中に展望台と大アカマツがあるはずだが見つけられぬまま高度をかせぐ。途中、右手前方に、氷ノ山とおぼしき残雪の山が見えたが、あの辺りが展望台か？アカマツもあちこちに生えているがどれが大やら。どうも、“台”と“大”を意識しすぎたのかも知れない。

11:30頃早めの昼食をとる。そよ風に



眠気を誘われる。ゆっくりと時間が過ぎて行く。12:20大段山山頂着、二等三角点のあるならかな山頂で、コーヒーをいただく。水とバーナーの重い荷を、そして美味しいコーヒーを有難うございました。

頂上から少し下ったところに“湿地”と思しき水溜まりを見ながら、尾根筋の道を下るが、松葉の絨毯の急斜面で足元不安定。“くちばし岩”で一服。少し下り、尾根筋から左に折れ下山。こぶしの村キャンプ場の対岸に出たところで、霧雨が降り始める。

14:30集会所に戻り、車で千町小屋に。小屋と言う呼び名が似合わない建物です。水力発電で電灯は点くし、プロパンガスで台所はお湯が出る。レンジフードも付いている豪華設備。

薪ストーブに火を入れて、コーヒーを飲みながら、“贅沢な気分”を味わう。寄せ鍋、炊き込みご飯で美味しい夕食、ビールで乾杯。そして焼酎……。

午前4時頃、天窓を叩く雨の音で目が覚める。明日の天気心配もせず再度熟睡。

6:30起床。靴のことなどすっかり忘れ

ていたが、夜中に靴を建屋の中に入れてくれた方に感謝。さもなくば、靴の中が水溜まりになっていたことだろう。頼り切りの精神に反省。

雨は相変わらず強く、新緑の木の葉が風に揺れる。良い眺めだが、登るにはチョット！

7:00コーヒーに始まり、キムチ風味の雑炊で朝食。8:40雨強く、千町ヶ峰は中止。

今回の山行は、左足首に少し不安を抱えておりました。どうやら大丈夫の様ですが、この雨は無理をするなどの“天の配慮”と割り切って、“沈黙”。縦走と違い気楽です。私のような怠け者向きの山行です。近くに飛来する鮮やかな黄色の腹の“キセキレイ”や、遠くの山の雨に煙る新緑の淡い緑、時期の終わりの山桜を眺めて過ごす。昼食のおにぎり、カップ麺を食べて雨の中を帰途につく。

15:10自宅まで送って頂く。いたれりつくせりの千町小屋泊まりの大段山でした。同宿の皆様、美味しい食事と、楽しい時間を有難うございました。

② 銅山(954m)

日時：5月3日(木・祝)

参加者：L砂川(延) SL尾越 上田 大石 小山 塩津 和田

行動記録：

3日 まほろ場の湯 8:30～倉床川第9号橋 9:00(ストレッチ 9:20 発)～精錬所上・登山口 9:50～国境尾根 11:00(11:10 発)～銅山 11:30(昼食 12:05 発)～大路越え 12:55～林道終端 13:15～大路廃村跡 13:25～林道分岐点 13:45～倉床川第9号橋 13:50(ストレッチ 14:05 発)～まほろ場の湯 14:30(15:30 発)～千町小屋 16:00

4日 千町小屋 8:20(ストレッチ)～笠杉山 9:02(9:12 発)～大たわ地蔵 9:35～登山口 9:50～千町小屋 10:00

★ 千町小屋／銅山 新緑の銅山に感動

和田

ひめじ別所駅で5人が落合い、車に乗って出発した。千町小屋で連泊中の砂川会長、上

田さん両氏とまほろばの湯で合流した。ここから揖保川源流域にある支流の倉床川に沿

って走り、奥深い雰囲気になった9号橋登山口に着いた。9時過ぎである。ここは少し広まっており、車が5台ぐらいは止められそうである。昨日の雨で水たまりやぬかるんだところがあり、空気は雨上がりで当然だがしっとりしている。「平成元年ふるさと100年の森林」と書かれた石碑が立っている。

ストレッチして、せせらぎの音のする谷川沿いに歩き始めた。少し歩くとまず目に入ってきたのは、ぱっと広がる芽吹いてまだ間の無い瑞々しい木々の緑である。山の中は手入れされて下草は無くきれいである。少し離れた小高い場所には山桜か何かは定かではないが緑のなかに何か白く花が咲いているように見える。小鳥のさえずりも聞こえる。そんななかを歩いていると、いやあ良いなあと感じる。心が洗われる思いである。

また少し歩くと、銅精錬所跡、坑道跡、立入禁止という看板の付いた金網張りが現れた。形のはっきりしない少しへこんだ溝状の場所である。ガイドブックには奈良の大仏鑄造のおり、ここの銅を献上したと書いてある。しばらくすると銅山登山口と書いた柱が現れ、谷川に木の橋がかかっている。ここで谷川を渡り、山中へ入ってゆく。

山の中は手入れされた杉林である。木立は皆すらっと伸びているが、若干密生しすぎではないかと思う。その中を登ってゆくと尾根筋にでた。霧が少し出て、時折、小さい雨粒も顔にあたる。林のなかの霧は これまたち

よっと神秘がかってくる。カッパを着ようかどうかと迷う。

11時半ごろ頂上954mに着いた。記念写真である。頂上といっても特別抜きん出ているピークではない山中の頂きである。それでもほっとする一瞬である。それから弁当を食べた。この頃はみんなカッパの上を着用している。

また尾根筋を歩きだした。尾根筋の片側は杉林でうっそうとして、反対側は広葉樹林帯で明るく緑がきれいになっている。そのうち広葉樹林のなかを下っていきだした。やっぱり登りよりは楽で早い。この辺りで山帽子が咲いているのが時々目に入りだした。派手な花ではないが緑のなかできれいである。

“山・宇銅山官林”と書かれた石柱が有った。ずっと国有林だったんだろう。

“サロンパスの木”と札のかかった木があった。ほんまにサロンパスの木というのだろうか？いや時々みかける緑化を実践している企業の木というやつの一つだろうか？みんなで推測するが不明である。帰ってネットで調べてみると、みずめ桜というカバの木の一種で皮を削るとサロンパスの匂いがする木だとか。

どんどん下っていくと谷筋に水がぼたぼたしみだし、小さい流れになってきた。ここに“揖保川支流倉床川源流地点・瀬戸内海まで約68km”という標識が立ててある。

林道に出てきた。歩いていると、ぽっかり真黒な穴があいているのが見えた。坑道の入り口だろう。どんどん行くと朝のストレッチをした所へ出てきた。ぐるっと一周したわけである。

今回、特に印象に残ったのが瑞々しい新緑である。また大勢も楽しいが、少人数の山行も良いもんだ。今夜は千町小屋でくつろぐかなあ。そして明日は笠杉山に登るか！



大峰山系 大普賢岳（1780, 1m）～八経ヶ岳（1915m）

日 時：5月3日(木)～5日(土)

参加者：L 松下 SL 須増 大谷 蔵田

行動記録

5/3 JR 明石(全員集合)6:48⇒大阪環状線(乗換)7:33⇒天王寺 7:53 着・近鉄 大阪阿部野橋 8:10⇒大和上市 9:21 着・奈良交通バス 大台行 9:30⇒和佐又口 11:00⇒和佐又ヒュッテ 12:00⇒ヒュッテ 14:00⇒和佐又山 14:25⇒和佐又の科尔 14:40⇒ヒュッテ着 15:05

5/4 ヒュッテ 5:35⇒和佐又の科尔 5:55⇒笙の窟 6:35⇒小普賢岳下 7:25⇒大普賢岳 8:10⇒弥勒ヶ岳 8:50⇒稚児泊 9:45⇒七ツ池 10:00⇒七曜岳 10:16⇒行者還避難小屋 11:35～12:25⇒一の峠 13:20⇒トンネル口出合 14:00⇒弁天の森 14:35⇒聖宝ノ宿 15:15⇒弥山小屋 16:15

5/5 弥山小屋 7:50⇒弥山 7:55⇒弥山小屋 8:00⇒八経ヶ岳 8:20～8:45⇒弥山小屋 9:15⇒狼平 10:20～10:30⇒高崎横手出合 10:50⇒ナメリ坂下ブナ林 12:00～12:20⇒栃尾辻 12:50⇒926 ピーク 13:58⇒天川川合 登山口 15:08・前平旅館・入湯 15:30～17:00⇒近鉄下市⇒各地

★ 和佐又～八経ヶ岳 雨 風 …

お天気は良くないと覚悟はしていましたが、ここまで悪天候になるとは思わなかった。アルプスでは、遭難事故が多発し、死亡者も出ているとの情報を弥山小屋で聞き、今、小屋に入れたことに感謝した。



5月3日 和佐又ヒュッテまで、雨のため、自動車道を歩く。お昼過ぎ、ヒュッテ着。雨は、小康状態だったので、和佐又山までピストン。小屋で天気図もとっていましたが、この夜、まだ明日の荒天を予想だにしていませんでした。

5月4日 朝、雨の中、5:30頃出発。良くなるだろうと期待しながら……。しかし、雨は止む様子もなく降り続きます。笙の窟の大岩に感動！しながらもただひたすら

蔵田

歩きます。大普賢岳、8時すぎ、天気は益々悪天候となり、風もあり、何度か飛ばされながらの行動です。

岩場、くさり場等の危険な道が続くので緊張感もあり集中力もあったのだと思います。行者還避難小屋 11:35着、約50分休憩、食事を済ませ外に出ると寒い！ここから弥山小屋まで何と長く感じられた事、景色を楽しむ事もなく、レーションを味わう事もなく、歩く為に食べなければとの思い(笑)、それでも幻想的な風景を時折り楽しみながら小屋までひたすら歩く。弥山小屋 16:15着。以前皇太子様がお泊まりになったので小屋周辺が木道で整備されている。小屋手前での単調なその木道が何としんどくて重かった事でしょう。

5月5日 台風一過のよう、いいお天気です。ゆっくり出発し八経ヶ岳をピストン、八経からの展望は大パノラマ、昨日歩いた普賢岳の稜線のシルエットがすばらしいです。今日は体も心もリラックスしています。天川、川合へと下山。手配していただいていた宿のお風呂でさっぱりし、皆、美味しいビールで終了！リーダーお疲れさまでした。思い出深い山行となりました。

堂満岳（1057m）

日 時：5月10日(木)

参加者：L松下 大谷

行動記録：JR比良駅9：15～桜のコバ9：40～ノタノホリ10：20～堂満岳12：15―昼食―金糞
峠13：10～北比良峠ロープウェイ駅跡13：35～大山口14：50～イン谷口15：15～
JR比良駅15：50

★ 石楠花にさそわれて

急な計画立案を強行したためか参加者が少なく、とうとう二人で行くことになりました。比良駅から田圃道を歩いて行くと、美しい山容の堂満岳が見えます。桜のコバから登山口に入り、堂満岳をめざす登山者は私達の他は男性ばかりで、皆さん単独行でした。気象の読みは前回の大峰山行で痛い目にあったので今回はしっかりとチェックし、上空の寒気を気にしながら下山遅れにならない事と出発しました。登山道は踏み跡がしっかりしていて迷う事もないルートです。ノタノホリ池は神秘的な雰囲気醸し出しています。谷筋から登り、稜線に出るとホットするのも束の間、急登の連続です。釈迦岳はくっきり見えますが、武奈ヶ岳方面や湖北方面が霞んでいるのは春霞なのか、黄砂の影響なのか・・・？山頂に近づくとつれ、石楠花がところどころ咲いていました。山頂付近は石楠花が多く群生していて、満開の木も結構あり、蕾の木は少なかったのが花期としてはまずまずでしょうか……。山頂で石楠花に囲まれて、下山ルートを協議しました。計画書としては東稜ルートピストンで、エスケープルートも来た道に戻るとして提出したのですが、東稜はかなりの急登であった為、無理ではないけれど下山ルートとして厳しかった事、金糞峠までも石楠花が多い事、時間的に余裕がある事などから、金糞峠まで行きここから下るルートへ行動予定を変更しました。ところが、石楠花道を楽しんで金糞峠まで行ったのは良かったのですが、金糞峠から下る

松下

ルートは落石の危険の為通行禁止の通告がありました。空模様と下山時刻が気になりましたが、北比良峠まで行って歩きやすい大山口へ下るルートをとることにしました。このルートは武奈ヶ岳や釈迦岳も望め、石楠花は



じめ、イワカガミやイワウチワの群落、ツボスミレ、フモトスミレ、ナガバタチツボスミレなど花が多く存分に楽しめました。しかし、エスケープ・ルートとして計画書に挙げていないルートを辿ったのは安全面の為とは言え、逆の角度から見ると安全行動でなく、山行計画が不十分であったと言えます。計画書にないルートを辿る事は非常時を除いて山行の上では避けるべき事で、今回の反省点その②です。下山後の反省会でも話し合い、次回でも実りある山行をと誓うのでした。

弥十郎ヶ岳 (665m)

日 時 : 5月13日(日)

参加者 : La 和田 SLa 森川 青山 阿蘇 内海 小山 嶋澤 時井 開
Lb 澤田(律) SLb 長谷川(孝) 阿江 井上 狩集 瀬尾 竹内 平山 森永

行動記録 : 山電高砂駅 8:15—JR 宝殿駅 8:30—波々伯部神社着 10:20 (10:30 発) —蛭子神社
着 10:35 ストレッチ (10:40 発) ~弥十郎洞穴 11:55~弥十郎ヶ岳頂上着 12:15~昼
食 (13:05 発) ~ハハカベ山 13:45~農文塾 14:30~ストレッチ~14:40 バス乗車—
こんだ薬師ぬくもりの湯 15:40 (16:30 発)

★ 篠山弥十郎ヶ岳の山開き

今日は晴天に恵まれ、丹波篠山の南東に位置する弥十郎ヶ岳の山開きです。私達3人は近くから乗車、合流して18名は国道372号線を通り、バスの運転手さんから歴史「三草合戦」の話を説明してもらいながら車窓からコンクリートの壁のモニュメント(平家本陣を源氏の襲撃を受けている様)を見学して旅行気分になり、大きな黒豆のオブジェがあるデカンショ街道を通り、波々伯部(ほおかべ)神社で休憩してから目的地に到着。

畑市の大ネズ(ヒノキ科・郷土記念物)の前で、内海さんの元気な号令でストレッチして体をほぐし11時出発。薬師野ヶ原キャン

阿江

プ場では地元の方達数人がたき火をしているのを後に、2班に分かれて入山、広くて歩きやすい登山道です。私はB班で、リーダーがゆっくりゆっくりとかみしめるように歩いてくださるその後を、登りに弱い私は普段の鍛え方が足りない自分に反省しながらストックを使い付いていきました。鳥の鳴き声、小さな滝、せせらぎ、新緑の香りがあたりに満ち満ちて疲れも癒されました。岩場ではストックを収めて岩のコケのきれいなのを撫でてみながら、すべらないようにロープを持って登ります。“弥十郎洞窟”岩場の谷を越すとポッカリと大きな口を開ける洞穴が頭



上に見えます。弥十郎ヶ岳の登りは案内板も親切にありました。みなさんは余裕で楽しくお話ししながら

登りました。

頂上近くになると山開きに参加された方達の下山と出会い、この方達からも頂上がもう少しだから「頑張れ」と声がかかり、山頂の看板が見えてくると先輩達から「ファイト、ファイト」の声や「もう少しや」と励まして登りきることができました。

山頂で両班の集合写真、大きな横断幕「絆・山開き弥十郎ヶ岳・夢」を持って、恐れ多くもお寺さんにシャッターを切ってもワラビなど収穫する人もあり、楽しい一時で、帰路は磯宮神社（ハダカガヤ・天然記念物）を車窓から見学しました。

こんだ薬師ぬくもりの郷に15時40分着、温泉で今日の疲れも洗い流し、会話に花が咲き、あっという間のぬくもりの時間で髪を乾かすのも途中でバスに乗り込み、

らいました。素晴らしい新緑の景色を眺めながら寒からず暑からずの好季節で昼食も格別でした。

下山は13時5分出発。分岐点で違う道に進み、すぐに両リーダーの的確な判断で引き返しました。山道は落ち葉でフカフカの道で、後はスムーズに下山しました。

開閉（獣よけ）の柵を出ると、前は一面の茶畑、里山セミナーハウスは茅葺民家で宿泊も出来るようです。大空農園付近でのふき、みなさんはソフトクリームやみやげを買ったりして、16時半出発、帰路に着きました。

弥十郎ヶ岳は全体的にゆるやかな傾斜で登りやすく、人名の付いた山です。山開きの良き日に山行でき、楽しい一日でした。ありがとうございました。

はじめての山歩き教室 鶴嘴山（263.2m）

日 時：5月13日(日)

参加者：L砂川(延)・上田 SL山本・須増 大瀬 大谷 金島 長谷川(易) 松下

行動記録：東嘴先駅発9:00～摩崖仏9:26～小宮天満宮～9:40 屏風岩頭9:52～

鶴嘴山10:45～大正池11:35～東山公園志んぐ荘12:00(13:00発)～はりま新宮駅13:20(13:36解散)

△▲△ 山での歩き方トレーニング②鶴嘴山 ▲▲△

松下

ての山歩き教室”をスタートさせました。今日は実技2回目です。本日の教室の参加者は19名、スタッフ9名で2班に分かれて出発しました。上空に寒気が入っていたので少し気温が低めで過ごしやすく、清流・揖保川～新龍アルプス～“寝釈迦の渡し”の眺めも良く、播磨灘まで見渡せて登山日和でもありました。砂川会長が前回の京見山での歩き方の復習で、対向者の交わり方を指導されていた。対向してくる登山者を交わす時はザックを山側へ向けて山側へ立ち、対向者を見送るまで目離ししないこと。すれ違う時にザックが当たってバランスを崩し、転・滑落する事故を防ぐため



高御位山遊会創立10周年後のセカンドステージである播磨地区でのセンター的役割を担おうと漕ぎ出し、昨年の加西地区から会場を移して、今年は姫路地区で“初め

です。前回の京見山では歩行順序についても話されていましたが、マイペース型の方は後方へポジションを置き、おしゃべりを楽しんでいました。里山では整備されていない登山道もあり、ピークの急登、急下降路の歩き方が慣れない方は今後の課題でしょう。とはいえ、皆さん転ばずに歩かれました。鶴背山山頂には四等三角点がありました。三等三角点との違いは・・・？

※三角点＝三角測量に用いられる経度・緯度・標高の基準となる点。一等三角点＝4

0 Km間隔で千点。二等三角点＝8 Km間隔で5千点。三等三角点＝4 Km間隔で32千点。

四等三角点＝地籍調査等の測量基点として国土交通省の委託を受けて国土地理院が設置したもの。

初夏の心地良い山歩きの後には東山公園へ下山しての昼食となり、お弁当目当ての合鴨たちとしばし和みの時を過ごし、JR姫新線・新宮駅での解散となりました。教室生から歩き足りない～の声も聞こえました。

段ヶ峰 (1103.4m)

日 時：5月20日(日)

参加者：La 澤田(律) SLa 渡邊(俊) 足立(美) 井上 狩集 坂田 瀬尾 多木 野村
長谷川(易) 三木 大谷

Lb 砂川(延) SLb 中嶋 池尻 北村 澤田(卓) 佐藤 嶋澤 瀧原 藤原 渡邊(健)

行動記録：宝殿駅 7:15－市川パーキング 7:50－登山口着 8:20 (ストレッチ後出発 8:35) ～
達磨ヶ峰 9:15～フトウガ峰 11:00～段ヶ峰 11:40 昼食後出発 12:20～フトウガ峰
12:50～杉谷登山口(倉谷橋) 13:40～ゴルフ場登山口近く下山後ストレッチ 14:40
－市川パーキング 15:30－宝殿 16:10

★ 段ヶ峰山行

段ヶ峰は宍粟50名山の一つ(標高の高い方から16番目)で標高1103.4m(最高点は1106m)。ふるさと兵庫50山にも入っており山頂からの眺望が良いことで知られる。

天気予報では曇り気味とのことで少し心配であったが予定通りに7:15分過ぎに宝殿駅をマイクロバスにて総員22名で出発した。生野の登山口までは1時間。ストレッチをしてから登り始める。事前に調べておいた断面図の通りで最初の達磨ヶ峰の手前(“肩”と呼ぶらしい)までの1時間は今回の山行で一番きつい登りばかり。いつもの山行では登山口あたりは木が鬱蒼としているものだが、このコースでは登山道には木が殆ど無く周囲を見渡せるので気持ち

渡邊

よく歩くことができる。宍粟50名山の東端にあるだけあってこれまで訪れた宍粟の山々とは趣が異なっている。周りを見回すと山の国宍粟の通りで何重にも(延々と)山また山である。

最低コルからフトウガ峰手前までも二番



段ヶ峰頂上

目にきつい登りが続いた。登り切った三角点(標高1071.7m フトウガ峰まで約270m手前)で小休止。フトウガ峰の頂上にある標識や段ヶ峰が一望できた。ここから段ヶ峰までは尾根歩きとなる。断面図の情報から余裕を持って歩くことができた。段ヶ峰頂上には11:50着。360度の視界を楽しむ。昼食をとったが日が陰ると寒くなってしまい上着を羽織る。当初の計画では登山口から段ヶ峰までをピストンとする予定であったが杉谷コースから降りてみることになった。杉谷コースは杉林を通るジグザグ道が延々と繰り返して閉口した。杉谷コースへの分岐から車道まで約40分で一気に降りた。その後はコンクリートの道を1時間歩いた。山行では最後に硬い林道を歩くことがよくあるが

正直しんどいものである。

計画書では休憩時間も入れて7時間と見込んでいたが、段ヶ峰からの復路をピストンとしないで杉谷コースにしたこともあって6時間でバスに戻ることができた。そのため宝殿駅には16時過ぎには到着できた。

杉谷コース以外は木々の間を抜けて行くということはあまりなく、背の低いササとアセビの生い茂った見晴らしの良い尾根道を歩くことになり同じ宍粟の山でも色々な山があることが分かった。

天気も問題なく本格的な暑さが到来する前の晩春の一日を楽しむことができた。生野“高原”の名前にふさわしく初夏などに涼しい風を感じながらのトレッキングも楽しそうである。秋にでも晴天の日を選んでもう一度登ってみたいくなる山である。

氷ノ山すずこ狩(1509.6m)

日時：5月26日(土)～27日(日)

参加者：L 砂川(延) SLa 松下 大谷 金島 瀬尾 武田 開 平山 森川

行動記録：

- 5月26日 山電高砂駅8時15分—JR加古川駅8時30分—JR宝殿駅8時50分—
(加古川BP、播但道経由) 和田山9:50—トヨタスーパー関宮10:30—
氷ノ山国際スキー場ロッジ前11:25—慰霊碑参拝11:40(13:00発)—昼食—
大段が平P13:50～大段が平14:00～大屋避難小屋14:20～神大ヒュッテ15:00
(泊) すずこ狩り15:30～17:00
- 5月27日 すずこ狩り(7:30～9:30) 神大ヒュッテ9:50～氷ノ山頂上10:15(11:00発)～
神大ヒュッテ12:00～大段が平P12:50—まほろばの湯15:30—宝殿駅18:00着

★ 氷ノ山すずこ狩り

平山

5月26日—27日、すずこ狩りに参加して来ました。2日間共良い天気にも恵まれました。出発は余裕ある8時45分、途中食料を買って、一路氷ノ山国際スキー場へ。

15年前にナダレにより遭難された淡路島の山岳会6名の碑の前に花を捧げ黙祷する。谷というより崖に近い。ナダレに巻き込まれるとは想像しなかったろう。冥福を祈ります。

大段が平へ。食料を分け合ってサックに入れ、神大ヒュッテを目指す。ヒュッテには先客が居た。神戸大登山部OB6名の方に迎えて戴いた。リーダーははきはきとされた方、親切で砂川会長も存じておられる方でした。9名分の夕食を作る人、すずこ狩りに行く人、夕食を作られた方は大変だったと思います。メニューも多くご馳走ばかりでした。食後は神戸大登山部OBによるマジックショー(本当にスプーンが目の前で曲がった。だが百均のスプー

ンしか曲げられないとか) 金島さんのリードで全員による合唱が続き楽しい食後を通しました。

翌朝は全員すずこ狩り、すこし時期が早いとのことでしたが、そこそ持ち帰る分の収穫あり。すずこ狩りの後、山頂へ登る。所々に雪が残っている。山頂避難小屋直下、大きな雪渓といえるほどのものが残っていた。

山頂天気良ければ、すべて良し。一時を過ぎてヒュッテへ。直ぐに帰り仕度。写真を撮り、神大OBの人と一緒に(元気で山に登ってよ)(元気でな)(有難う)(来年も来てよね)の言葉、ことば。6名総出の見送りを受け、帰路へと。山人と2日共に出来た。ヒュッテより椅子に座って前方の山並みを見、沈み行く夕日、暗み空にきらめく星。あれ北斗七星だ。あれは北極星では?私には分かりようがなかった。70歳過ぎてのスロー登山。良かったな!!

